

# 令和4年度 北上市発掘調査概要

北上市立埋蔵文化財センター

## 6. 堰向Ⅱ遺跡 (二子町南田) —平安時代の大集落—

**調査期間** 10月18日～11月17日 **調査理由** 住宅建設 **調査概要** 過去の調査により平安時代の大規模な集落跡がみつかり、地域の拠点的な村だったと考えられています。今回の調査では、縄文時代の土坑2基、平安時代の竪穴住居跡2棟、土坑2基、中～近世の掘立柱建物跡1棟などがみつかりました。過去の調査にくらべ平安時代の遺構が少ないことから、遺跡内でも竪穴住居跡の分布にばらつきがあることが明らかになりました。



## 7. 下仙人館跡 (和賀町岩沢) —中世城館と縄文集落—

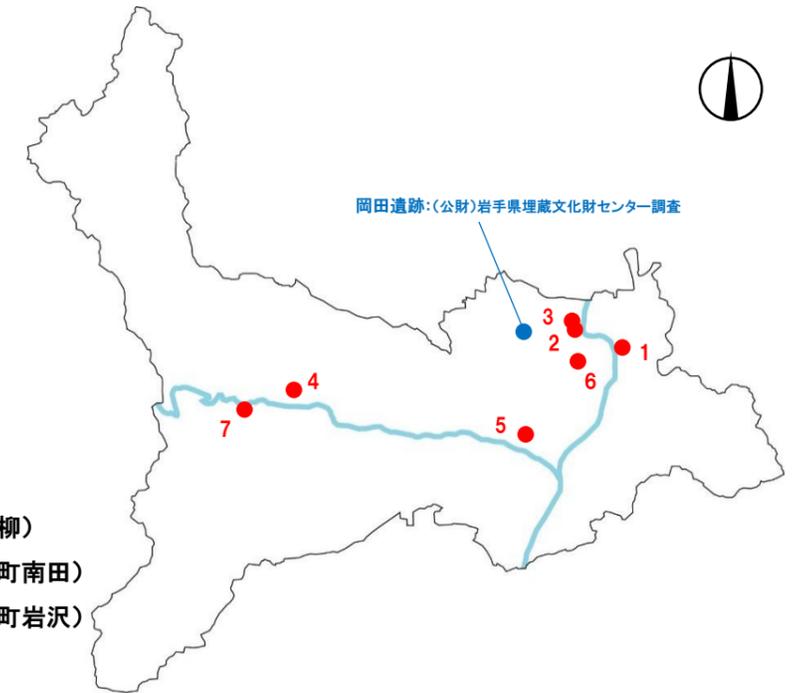
**調査期間** 8月23日～11月22日 **調査理由** 消防道路建設 **調査概要** 遺跡は和賀川南岸の高台の上にあり、遺跡内には国重要文化財多聞院伊澤家住宅があります。昨年度は東側下段の平場の調査と、地形測量を実施しました。今回は伊澤家住宅東側の平場を調査し、縄文時代前期の竪穴住居跡2棟、土坑10基、中世の堀跡3条、近代の馬埋葬土坑2基がみつかりました。堀跡のうち1つは今回の調査で初めてみつかりました。また、東側の堀跡から「聖宋元宝」の模倣銭が出土したことから、室町時代の終わり頃(16世紀後半)には城館として利用されていたと考えられます。縄文時代の竪穴住居跡のうち1棟は前期中頃(約6,500年前)、1棟は前期末頃(約5,700年前)のもので、800年という長期にわたり村として利用されていたことがわかりました。また、馬埋葬土坑の近くには明治20年代に建てられた馬頭観音碑があることから、馬の埋葬も同時期に行われたものとみられます。



はじめに

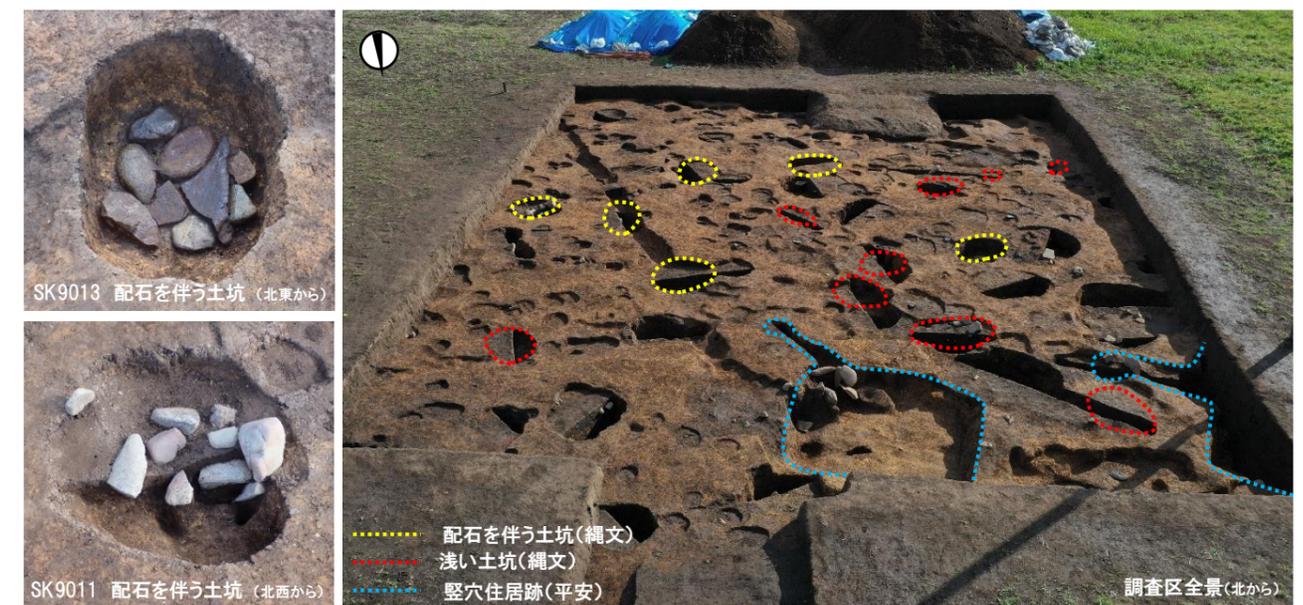
北上市立埋蔵文化財センターでは令和4年度、市内の7地点で発掘調査を行いました。道路建設、宅地造成などの開発により消滅する埋蔵文化財を記録保存するための調査が多いですが、史跡を保存・活用するための内容確認調査も行っています。発掘調査の成果をご覧ください、地域の歴史に思いを巡らせて頂ければ幸いです。

1. 八天遺跡(更木)
2. 二子城跡(北工業団地)
3. 馬場野遺跡(北工業団地)
4. 蛭川遺跡(和賀町横川目)
5. 鳥海柳遺跡(北鬼柳)
6. 堰向Ⅱ遺跡(二子町南田)
7. 下仙人館跡(和賀町岩沢)



## 1. 八天遺跡 (国指定史跡：更木) —縄文人の死と祈り—

**調査期間** 5月24日～11月18日 **調査理由** 内容確認 **調査概要** 何度も建て替えられた大形円形建物跡と、耳・鼻・口形土製品(重要文化財)などがみつかり、国指定史跡となりました。これまで8次にわたり調査が行われ、今回は大形円形建物跡の北側の状況を確認するため実施しました。調査の結果、縄文時代の配石を伴う土坑6基、浅い土坑9基、フラスコ状の食糧貯蔵穴7基、大型の柱穴を含む土坑57基、小型の柱穴状土坑約250基、平安時代の竪穴住居跡2棟などがみつかりました。遺構からの出土遺物は、縄文時代中期末葉～後期初頭(約4,500年前)が大部分であることから、今回の調査地点には後期中～後葉(約4,000～3,500年前)とされる大形円形建物跡より古い時期に、墓坑・貯蔵穴・掘立柱建物群が作られたと考えられます。中でも配石を伴う土坑は底面付近に石を配置する珍しい事例であり、大きさと埋土の状況から子どもの墓の可能性が考えられます。



北上市立埋蔵文化財センター

〒024-0043 岩手県北上市立花 14-62-2 TEL: 0197-65-0098



SK9016 配石を伴う土坑 (西南西から)



SK9028 貯蔵穴 (西北西から)



SI9001 竪穴住居跡 (北北西から)

## 2. 二子城跡 (北工業団地) — 縄文前期の集落 —

**調査期間** 7月12日～8月30日 **調査理由** 駐車場造成 **調査概要** 縄文時代前期前葉 (約6,500年前) の竪穴住居跡1棟、焼成遺構1基がみつかりました。焼成遺構は浅い土坑の底面に炭化物が堆積しているもので、その上から焼土がみつかりました。火災にあった土葺屋根の竪穴住居のみつかりかたと似ていることから、きわめて小規模な竪穴住居跡の可能性がります。



SI01 竪穴住居跡 (南西から)



SX02 焼成遺構 (南西から)

## 3. 馬場野遺跡 (北工業団地) — 縄文晩期の集落 —

**調査期間** 9月8日～10月13日 **調査理由** 駐車場造成 **調査概要** 食糧貯蔵穴と考えられる縄文時代晩期前葉 (約3,000年前) のフラスコ状土坑が2基 (SK01・SK02) 見つかりました。過去の調査で東隣からも同時期のフラスコ状土坑が6基みつまっていることから、付近には縄文晩期の竪穴住居が複数あると考えられます。



SK01 フラスコ状土坑 (南から)



SK01 フラスコ状土坑使用状況想定写真 (南から、遺物は他遺跡出土)

## 4. 蛭川遺跡 (和賀町横川目) — 縄文時代の土器捨て場 —

**調査期間** 4月27日～8月19日 **調査理由** 道路建設 **調査概要** 今までの調査で縄文中期の集落および中世城館であったことが分かっています。今回の調査では、縄文時代中期 (約5,000年前) の土器捨て場、石囲炉2基、地床炉4基、土坑13基、柱穴状土坑群がみつかりました。土器捨て場からは縄文土器の破片がミカン箱にして約40箱出土しました。竪穴住居跡はみつかりませんが、土器捨て場から竪穴住居に造られる石囲炉がみつまっていることから、同じ場所に居住している時期があったと考えられます。



縄文時代の土器捨て場 (南東から)



SL147 石囲炉 (南東から)



縄文土器 (中期中葉: 約5,000年前)

## 5. 鳥海柳遺跡 (北鬼柳) — 江釣子古墳群の周辺集落 —

**調査期間** 5月10日～6月15日 **調査理由** アパート建設 **調査概要** 本遺跡の西側には八幡遺跡、国指定史跡江釣子古墳群八幡支群があり、和賀川北岸の高台に沿って奈良～平安時代に集落が数多く営まれたことがわかっています。本遺跡の発掘調査は今回の調査がはじめてで、8世紀末と考えられる竪穴住居跡3棟、焼成遺構1基、土坑1基がみつかりました。竪穴住居跡3棟は大型、中型、小型に分類されます。遺物量は少ないですが、SI01・02竪穴住居跡からは蝦夷の儀礼用土器と考えられる赤彩球胴甕の破片が出土しています。各遺構とも同時期のものと考えられ、本遺跡では奈良～平安時代に村が営まれていたことが明らかになりました。



SI103 竪穴住居跡 (南から)



SI103 竪穴住居跡カマド (南から)



SI102 竪穴住居跡 鉄製紡錘車 (北から)